

海外自治体幹部交流協力セミナー2011(ロンドン事務所) 地方交流事業概要

【地方交流事業】

2月8日(水)【移動(東京→川崎市)/講義/川崎市長表敬】

(1)川崎市講義

①川崎市の概要(折原国際施策調整室長)

川崎市の全体概要について英語で説明がなされた。

②環境施策について(福芝地球環境推進室長)

公害克服の歴史、再生可能エネルギー、国際貢献について説明がなされた。

③経済施策について(増田経済局課長)

エコタウン構想、環境技術展についての説明がなされた。



阿部孝夫川崎市長表敬訪問

(2)川崎市長表敬

全体講義のあと、阿部孝夫川崎市長を表敬訪問。

阿部孝夫川崎市長からは、「川崎市の環境への取組内容は市内の環境技術企業視察、環境技術展視察を通じて、川崎への理解を深めてもらい、併せて川崎市としても、環境問題はヨーロッパから学ぶことも多いので、参加者との活発な意見交換を行いたい」といった話があった。

参加者団長からは、「政府の抱える問題を共有し、川崎市の持つ環境技術についてぜひ学びたい、ホームステイを通じて日本文化を体験したいといった挨拶がなされた。

(3)歓迎レセプション

川崎市主催による歓迎レセプションが開催された。天ぷら、寿司など日本伝統の料理が振る舞われ、日本食への関心の高さを認識できた。カジュアルな雰囲気の中で、川崎市と参加者で交流がなされた。

2月9日(木)【市内視察】

(1)NEC玉川事業所視察

1990年竣工の同事業所は、環境に配慮したオフィスビル及びワークスタイルとして有名なことから各国からの視察団を受け入れている。ビル内は、建材から照明、空調まで徹底した省エネと環境の配慮がなされており、従業員のエコ意識やコスト削減意識を促進させる施策の説明に参加者は熱心に耳を傾けていた。

(2)浮島処理施設・エコ未来館

市の施設である浮島処理施設屋上からメガソーラー(巨大太陽光パネル)、隣接するエコ未来館内の環境ショールームを見学した。

(3)三栄レギュレーター(株)東京工場視察

国が推進する資源循環型社会のモデルプロジェクト第1号として2003年に誕生した、世界初のゼロエミッション製紙工場。廃材からのリサイクル技術はもちろんのこと、廃材回収

のシステムまで、とても参考になった。

2月10日(金)【視察/ホームステイ】

(1)川崎国際環境技術展2012 視察

2009年から開催している川崎市の環境技術発信イベント。開会式では経済界の関係団体長や県議会、黒岩神奈川県知事らそうそうたる顔ぶれがそろっていた。参加者は各自興味のあるブースを精力的に見学していた。

(2)日本民家園視察

川崎市営の文化施設。参加者は伝統的な日本家屋がエコにかなったものである事を知り深い関心を寄せていた。

(3)藤子F不二雄ミュージアム視察

「ドラえもん」作者として知られる漫画家の藤子F不二雄氏が長年川崎市に在住していた縁で川崎市の施設として2011年にオープンしたミュージアム。「ドラえもん」そのものはヨーロッパでは知名度は無いが、日本の漫画ブームもあってか興味があったようだ。

(3)ホームステイ体験

川崎市国際交流協会の協力のもと、ボランティアによるホームステイ体験を行った。

2月13日(月)【意見交換会/視察】

(1)意見交換会

参加者2名によるプレゼンの後、意見交換会を実施。

ランカシャー県環境部長のタートン氏から「ランカシャーカウンティカウンシルの環境施策」、スペルソン市持続可能性・レジヤ部長のミュアヘッド氏から「国の環境行政と地方自治体の役割」と言うテーマでプレゼンを実施した。イギリスの地方自治体と日本の地方自治体の権限の違いや異なる複雑な機構、法体系が説明された。

それらを踏まえて、川崎市側、参加者側双方で活発な意見が交わされた。

(2)ペトリファインテクノロジー視察

日本の誇る最新のペットボトルリサイクル技術に参加者の興味も高かったようだ。

(3)川崎大師視察

日本三大厄除大師として有名な川崎大師では、本堂にて護摩体験をした。住職の講話を聞き、抹茶体験を行った。貴重な日本文化体験に参加者一同異文化体験に満足そうな様子であった。



2月14日(火)【視察/東京へ移動】

臨海部海上視察

川崎市港湾局巡視船「つばめ」に乗船し、川崎市の臨海部を会場から視察。川崎市の港湾施設、工業地帯、コンビナートの海上視察は普段目にする事が無いこともあり、参加者は川崎市の抱える環境問題取組に大いに関心を示していた。

